

Web 公開用研究成果概要

所 属	大磯町郷土資料館
氏 名	川邊 絢一郎

※本様式は可能な限りデータも合わせてご提供願います

研究テーマ	秋田県南部地域における雪と民俗——除排雪に関する民具を中心に
-------	--------------------------------

関連分野	日本民俗学
------	-------

※研究分野（地質学／考古学／教育学等）について記載願います

対象フィールド	ゆざわジオパーク、鳥海山・飛島ジオパーク
---------	----------------------

※研究対象のジオパーク名（複数の場合は全て）記載願います

キーワード	環境、除排雪、民具
-------	-----------

※研究に関するキーワードを 3 点程度記載願います

	本研究成果概要は秋田県ジオパーク連絡協議会 による「平成 28 年度秋田県ジオパーク研究助成 事業」公募研究に採択された研究の成果である。
秋田県ジオパーク連絡協議会	

1. 研究のねらい

秋田県南部地域における雪に関する民俗を比較し、積雪量の差が民俗に与える影響について考察する。本研究では積雪量の差が民俗に与える影響の一事例として、主に除排雪に利用する民具について調査を行う。具体的には秋田県南部の沿岸部と内陸部において、それぞれ除排雪に用いる道具の形態と利用法について調査し、比較検討する。

2. 調査の方法とその対象

2.1 参与観察・聞き書き

湯沢市・由利本荘市・にかほ市から以下の 10 地域を選んで調査を行った。参与観察では、利用されている除雪のための道具および防雪のための施設（カコイ）の観察を行い、聞き書きでは、主に以前に木製の除雪具を利用していたかどうかについて尋ねた。

参与観察では 460 軒の家屋、聞き書きでは 39 人の方を対象とした。調査対象地は、以下のとおりである。

にかほ市象潟町字横岡・由利本荘市西目町字出戸小字中高屋・同市矢島町字川辺小字田中・同市東由利町字宿・同市黒沢・同市鳥海町字下笹子・湯沢市岩崎・同市皆瀬字羽場・同市秋ノ宮字湯ノ岱・同市稲川町字川連小字上野

なお、聞き書きについては、上記の地域在住の方を中心としながらも、近隣地域の住民もその対象とした。

2.2 民具調査

除雪の道具については、29 点の資料について、名称・調査地・使用地・寸法を確認するとともに、写真の撮影を行った。対象とした民具は、前者の調査中に確認することができたもののほか、調査対象地域内の博物館等の収蔵資料に加え、補足的にそれ以外の地域の博物館等の収蔵資料も対象とした。

3.調査結果に基づく考察

3.1 除雪の方法・道具

降り積もった雪を処理し、人が通行できるようにするための「道つけ」の方法は、道路交通の変化とともに、その方法・道具が変化した。変化の時期は、国道への大型除雪用機械の導入時期である昭和 40 年代前後であると思われる。それ以前は俵型の雪中歩行具であるフミダワラを使って踏み固めていたものが、スコップや木製の除雪具によって取り除かれる形に変化した。

屋根の雪を落とし、家屋が倒壊することを防ぐ「雪下ろし」は、屋根の材質の変化によって、頻繁に行う地域（湯沢市）とそうではない地域（にかほ市・由利本荘市）に分かれた。カヤ葺き屋根の家だった時には、いずれの地域でも雪下ろしをしたという。道具については、いずれの地域でも一本の木から作ったコスキ系統の道具を使っている。棒の先端に板を取りつけたジョンバ系統の道具も広く利用されたようではあるが、雪下ろしに使ったという話者はいなかった。

秋田県南部地域においては、コスキ系統とジョンバ系統、どちらの道具も利用されていたが、コスキは主に屋根の雪下ろしに、ジョンバは主に地上の除雪に使われていたと結論づけることができるだろう。

3.2 防雪の方法・道具

いずれの地域でもカヤやワラを束にして立ててカコイとしていた。このカコイは広く風よけのために行うとされているが、一部地域で寒さ対策や雪下ろしの際に窓や家が傷むのを防ぐためのものだとしている。県南部で共通して行われていたカコイが、いつの頃からか、簾や防風ネットを中心にした地域と板を中心にした地域に分かれた。前者は比較的降雪が少ない沿岸部地域（にかほ市および由利本荘市西部）であり、後者は比較的降雪の多い地域（由利本荘市東部および湯沢市）と重なる。当然、後者では前者に比して雪下ろしの回数も、カヤ葺き屋根の頃と変わらずに多い。そのため、窓・家への傷を防ぐため、板が多く使われていると考えられる。一方、前者の地域においては、雪下ろしをすることがなくなった、もしくは少なくなったため、より簡易な簾や防風ネットという形に変化した。